

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 2 月 14 日 12:13AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,000～42,000 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 38,000～45,000 ドル
(S&P500) 5000～6200

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000～20,200

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 139.000～155.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～109.881

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

2025 年に日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇によって最高値を更新するでしょう。そのターゲットは[4 万 3000 円-4 万 5000 円]です※。

この第(5)波上昇を以て、コロナショック底以来 5 年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の 3 年間』完結)、その後はプライマリー第④波による停滞局面に移るでしょう。

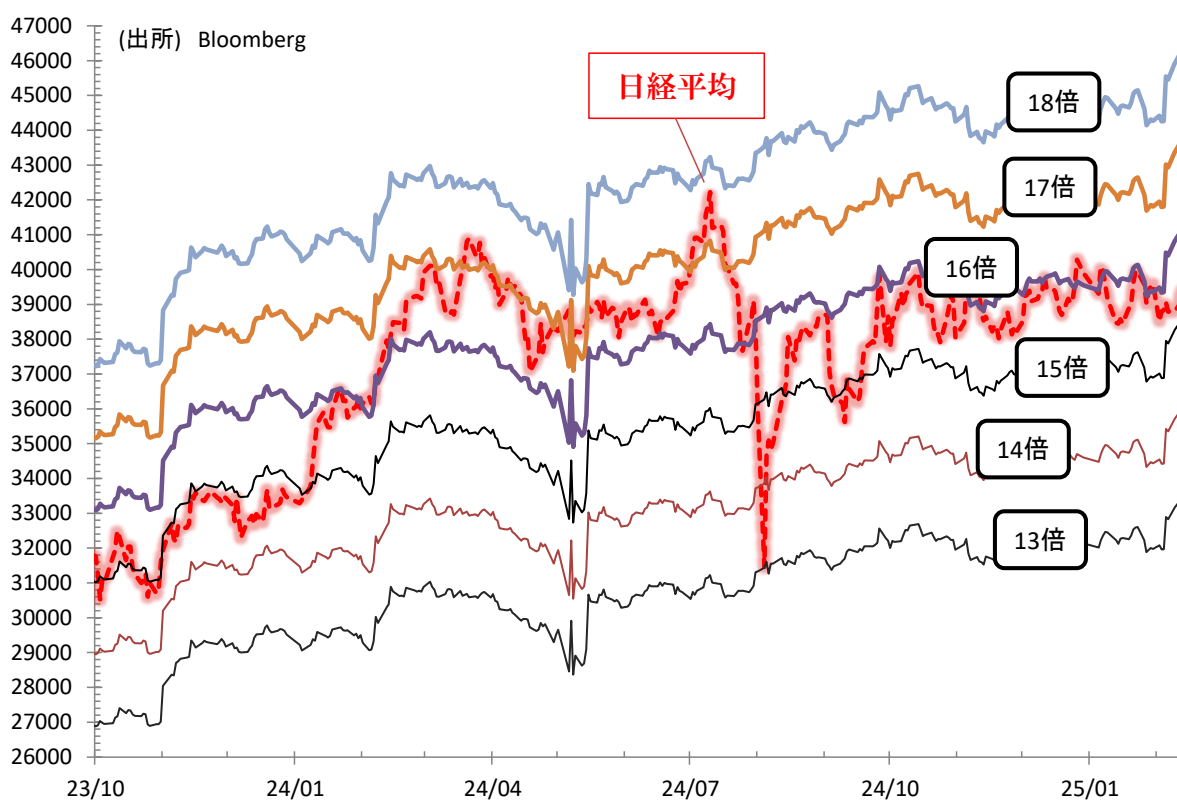
24 年 7 月以来のインターミディエイト級第(4)波の調整は続いているとみられます。

この見方によると、第(5)波上昇が始まる前に、日経平均は(4)-C 波によって下押しし、24 年 8 月底に次ぐ二番底を付けるでしょう。38,401 円を割ると、C 波による下げが鮮明になるでしょう(後述)。

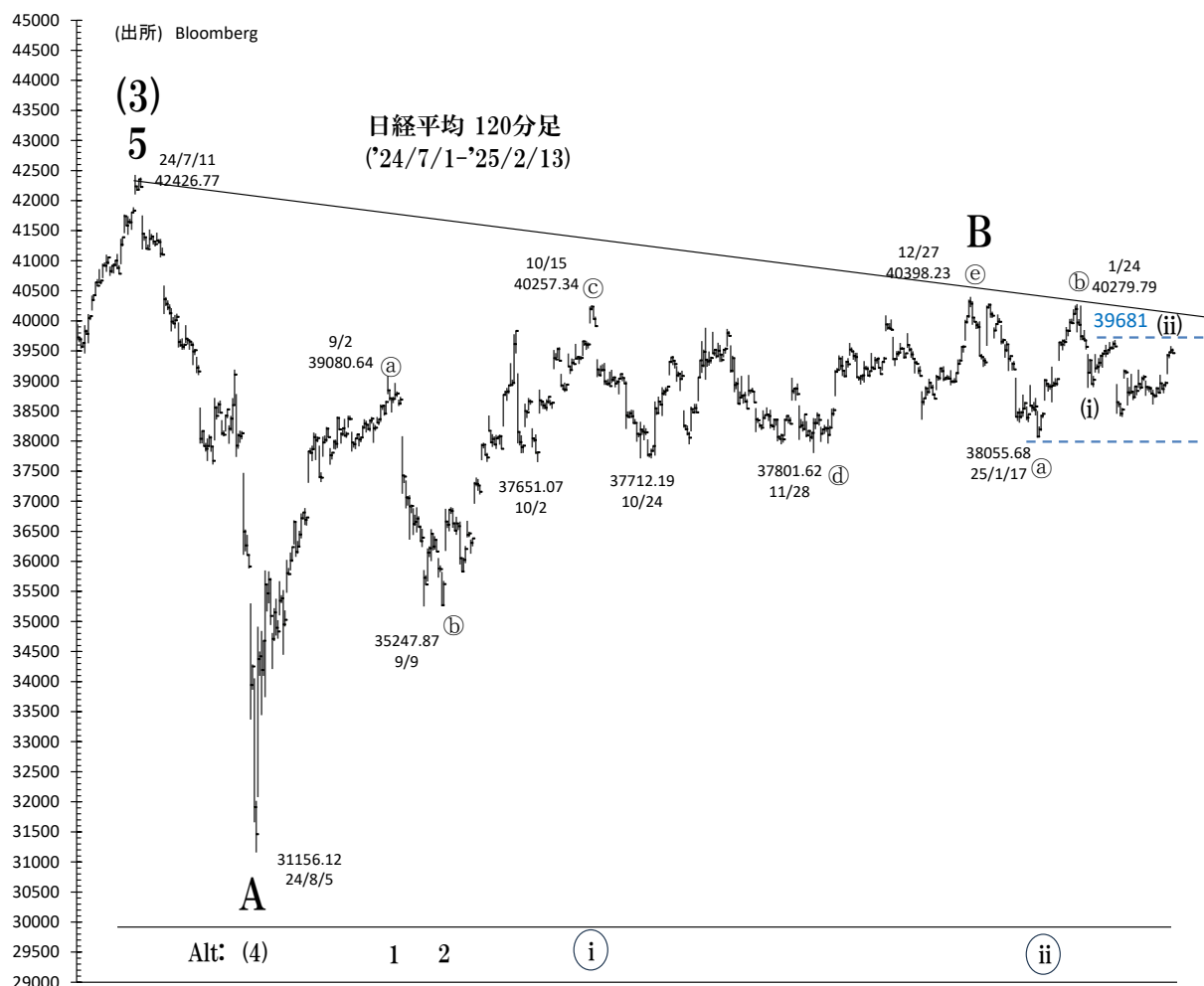
※2025 年の日経平均予想レンジは[3 万 5000 円-4 万 5000 円]です。



[予想 PER 別の日経平均水準]



2月13日の日経平均予想 EPS は 2564 円と、3 日連続で過去最高水準を更新しました。



【時間足 エリオット波動分析】

40,398 円(12/27 高値)から第(4)波中 C 波による下落局面が進行中とみられます。C 波は 24 年 8 月以来約 5 カ月にわたる上昇ウェッジから下放れ後、24 年 8 月底に次ぐ二番底を付けにいく波です。

第(4)波は「シメトリカル・トライアングル」を形成中とみていますが、それによると 40,398 円(12/27 高値)からの下落は(4)-C 波に当たり、40,279 円(1/24 高値)からは C 波-©波とカウントできます。

さらに©波中の第(ii)波は「フラット」を形成しています。38,401 円(2/3 安値)を割ると弱気トリガー。以降は©波中第(iii)波(サード・オブ・サード)による、急落局面を迎えるでしょう。

日経平均は当面 24 年 10 月からのレンジ相場下限(37,650~37,800 円)を試し、今月から来月には、24 年 9 月安値の 35,247 円を一時的にも下回る可能性があります。

その反面、38,401 を維持しつつ 39,681 円を上回ると、弱気見通しはいったんキャンセルされます。さらに、40,279 円をも上抜くと、別の波動カウントを採用します。これによると、24 年 8 月安値からは既に第(5)波による上昇が進行中、となります(チャート下部に、[Alt]で表示しています)。

NY ダウ・S&P500



【日足 エリオット波動分析】

NY ダウは、22 年 10 月安値(28,660 ドル)以来の上昇(B)波を 45,073 ドル(12/4 高値)で完成し、(C)波の下落局面に突入した可能性が高い、とみています。それは先々、22 年 10 月以降で一度もなかった大きなスケールの調整に発展していくでしょう。

22 年 1 月～10 月の(A)波は 22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、あるいはより大きな下落スケールになると思われます。

今後数カ月内の下値ターゲットとして注目される水準は、24 年 4 月安値(37,611 ドル)です。これは[エンディング・ダイアゴナル]開始点の水準のことで、この時点における NY ダウの高値からの下げ率は 16.5%です。

【オルタナティブ・カウント】

41,844 ドル(1/13 安値)から第(v)波による上昇が進行中です。この見方によると NY ダウは今後、**[45,244 ドル]**、**[45,575 ドル]**、さらに**[46,456 ドル]**へ上昇する可能性があります。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

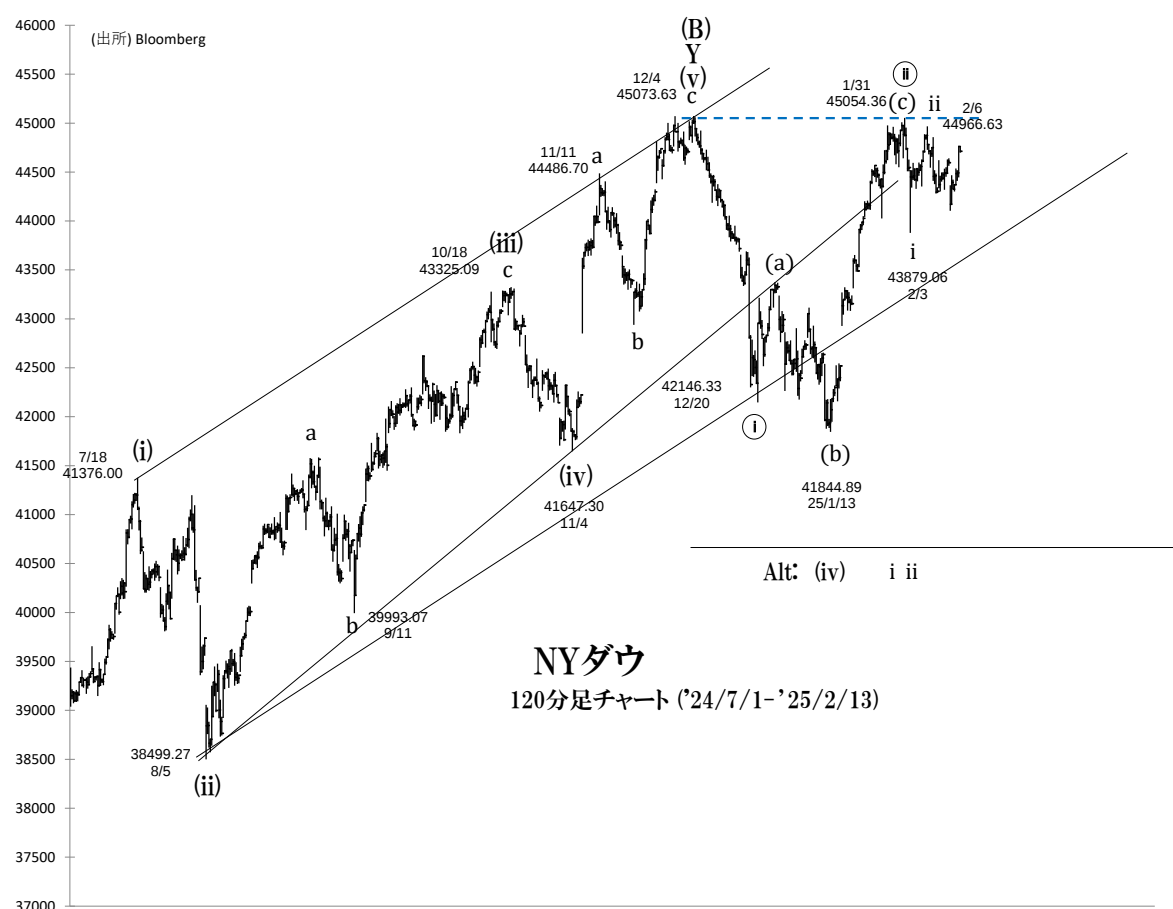
1 月 24 日の S&P500 の最高値(6128.18)は、NY ダウによつては確認されていません(NY ダウの最高値は昨年 12 月 4 日)。これら二つの指数間の未確認は、これらが重要な高値を付けた可能性を示しています。

S&P500 はフラット(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)による第 ii 波(サブミニュエット級)を足元で終えたか、終えつつあります。そうであれば、近々第 iii 波による下落が始まるでしょう。第 iii 波は早々に 5923(2/3 安値)を下抜き、さらに 5773(1/13 安値)への下値試しとなるでしょう。

一方、この波動カウントは 6128.18 を抜くと否定され—2 月 13 日には一時 6116 へ上昇しました—5923 (2/3 安値)からを第(v)波中第 iii 波の上昇とカウントし直します。この場合、S&P は[6145-6161]を試すでしょう。

[6145]…22 年 1 月～10 月の下げ幅に対し倍返し水準のこと

[6161]…1929 年天井からの長期レジスタンスライン



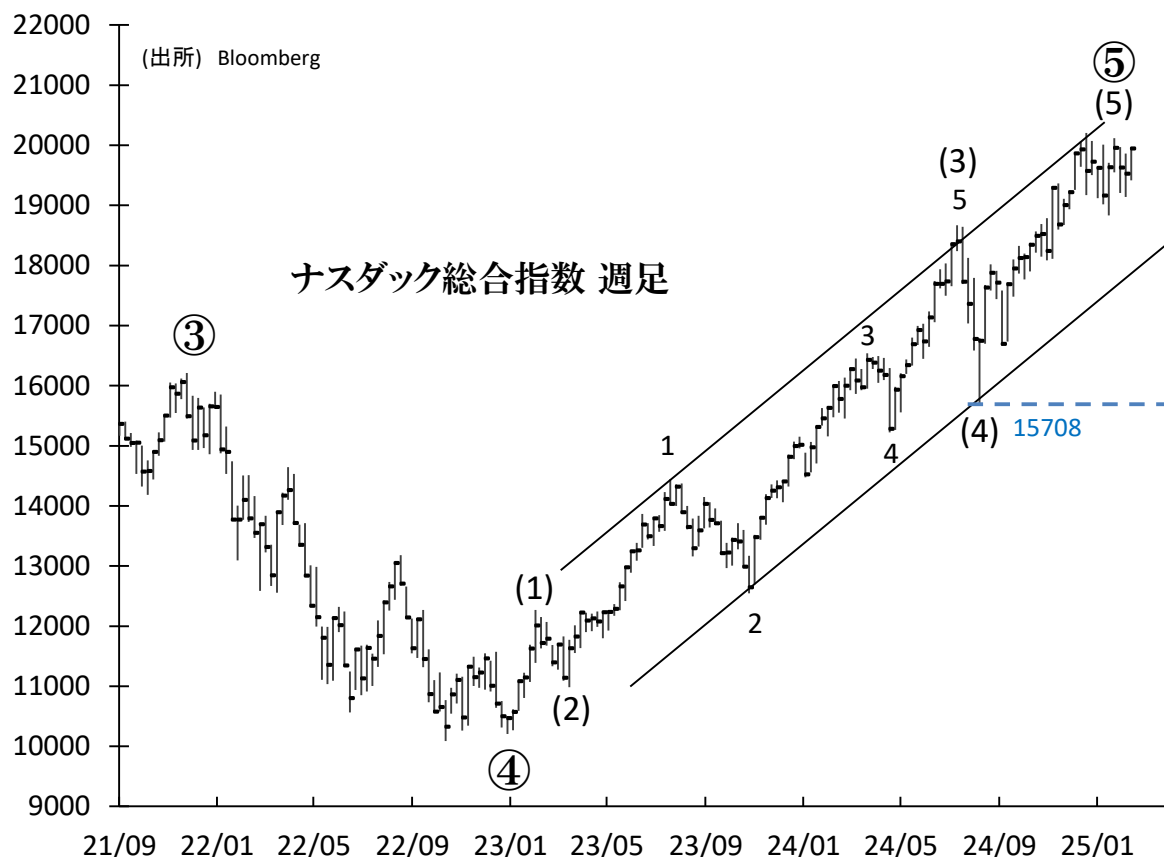
【時間足 エリオット波動分析】

45,054ドル(1/31 高値)を以てマル ii 波は終了し—45,073ドル(12/4 高値)とダブル・トップ形成—そこからは**マル iii 波による下落が始まった可能性があります。**

43,879ドル(2/3 安値)からのマル iii 波中第 ii 波によるリバウンドは、44,966ドル(2/6 高値)で終わったか、終わりつつあるとみられます。そうであれば、**まもなく第 iii 波による下落が始まるでしょう。**第 iii 波の下げ幅は、第 i 波の下げ幅(1175ドル)を大きく上回ることが想定されます。

上記見通しに代わるオルタナティブ・カウントは、41,844ドル(1/13 安値)からを第(v)波による上昇とみなし、1月からの下落は(v)波-ii 波に当たる、というものです。この場合、次は第(v)波-iii 波の上昇により、最高値を更新する展開が想定されます。

ナスダック



【週足 エリオット波動分析】

22 年 12 月安値(10,207)以来の上昇は、プライマリー級の第⑤波とみられます。

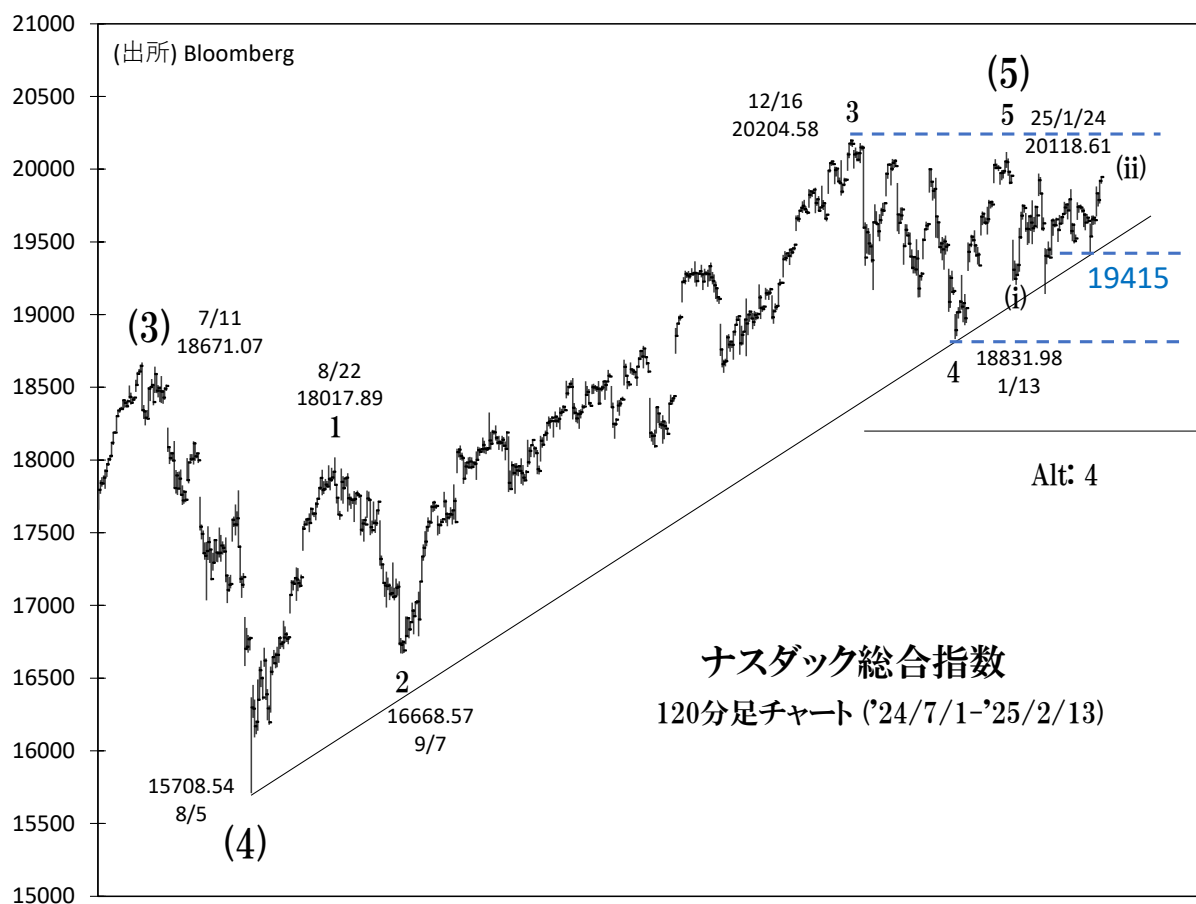
この波動カウントによれば、第⑤波は五波構成((1)~(5))です。24 年 8 月安値 15,708 からの第⑤-(5)波による上昇が完了すると、長期上昇トレンドが終了します。

24 年 7 月に頭打ちとなった SOX 指数(フィラデルフィア半導体株指数)は足元、「上昇ウェッジ」(弱気パターン)下辺からの下放れ局面に入っており、今後は一段と下落基調を強める可能性があります。遠からず、SOX 指数は 24 年 8 月安値を下回るでしょう。

ナスダックはサイクル級の調整に入った可能性があります。もしもサイクル級の調整に入ったのであれば、その調整規模は大きく、期間的にも長くなることが想定されます。

一方、ここ 2 カ月間のもみ合い(トライアングル)が第(5)波-4 波であるのなら、遠からず第(5)波-第 5 波による「最後の上昇」が始まるでしょう。この場合、サイクル級の調整開始は後ずれします。





【時間足 エリオット波動分析】

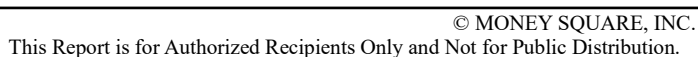
18,831(1/13 安値)からの第(5)波の第 5 波は、20,118(1/24 高値)を以て終わった可能性があります。第 5 波高値は、第 3 波高値(20,204)に及びませんが、これは「truncated fifth wave(短縮した 5 波)」だった、とみるのが適当でしょう。

この波動カウントが正しければ、次は第(iii)波による急落となるでしょう。19,415(2/12 安値)を下抜くと弱気トリガー。第(iii)波は 18,831 を明確に下抜くことが予想されます。

(オルタナティブ・カウント)

24 年 12 月高値からの保ち合いは「トライアングル」であり、それは第 4 波とカウントされます。20,118 を上抜くと、19,415(2/12 安値)を起点とする、第 5 波の上昇に入ったとみることができます。第 5 波は 20,204 を上回り、[20,459]を試すかもしれません。

[20,459]…24 年 8 月からの第(5)波(インターミディエイト級)の長さが、第(3)の長さの 0.618 倍になる水準





【週足 エリオット波動分析】

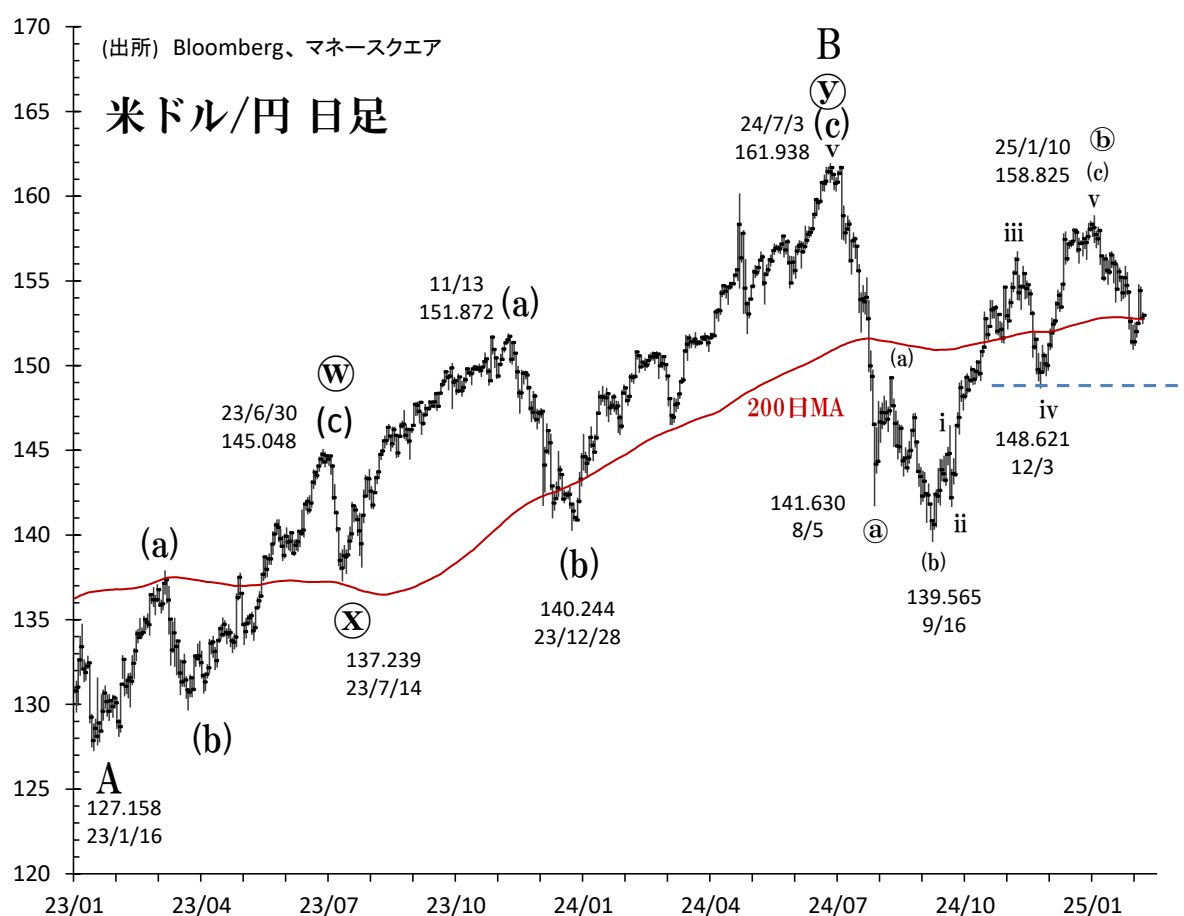
161.938 円(7/3)からは C 波によるドル安・円高トレンドです。月足分析で記した B 波[トライアングル]仮説によれば、C 波は三波構成(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)になります。

158.825 円(1/10)からⒸ波によるドル安・円高が進行中、とみられます。

そうであればドル/円は、**おそらく今後数カ月内に、24 年 9 月の 139.565 円を下抜くことが予想されます。**その際は以下がⒸ波ターゲットとして注目できます。

[138.517 円]…Ⓐ波とⒸ波が等しく下がる水準

[136.452 円]…24 年 7 月から 9 月までドル/円下落幅と、今年 1 月からのドル/円下落幅が等しい



【日足 エリオット波動分析】

ドル/円の一目均衡表(示さず)は先週「三役陰転」となり、強いドル/円売りシグナルが点灯しました。これにより、158.825 円(1/10)から©波によるドル安・円高が始まったことが確認されました。

2 月 12 日には一時 154.749 円まで反発したものの、想定戻りレンジの上限(155 円)近くで跳ね返されました。もう少しの間、149 円～155 円レンジで推移する可能性はありますが、149 円を下抜くのは時間の問題でしょう。149 円を下抜くと、次は[146.922 円] (9 月からのドル/円上昇の 61.8%戻り)を試すでしょう。

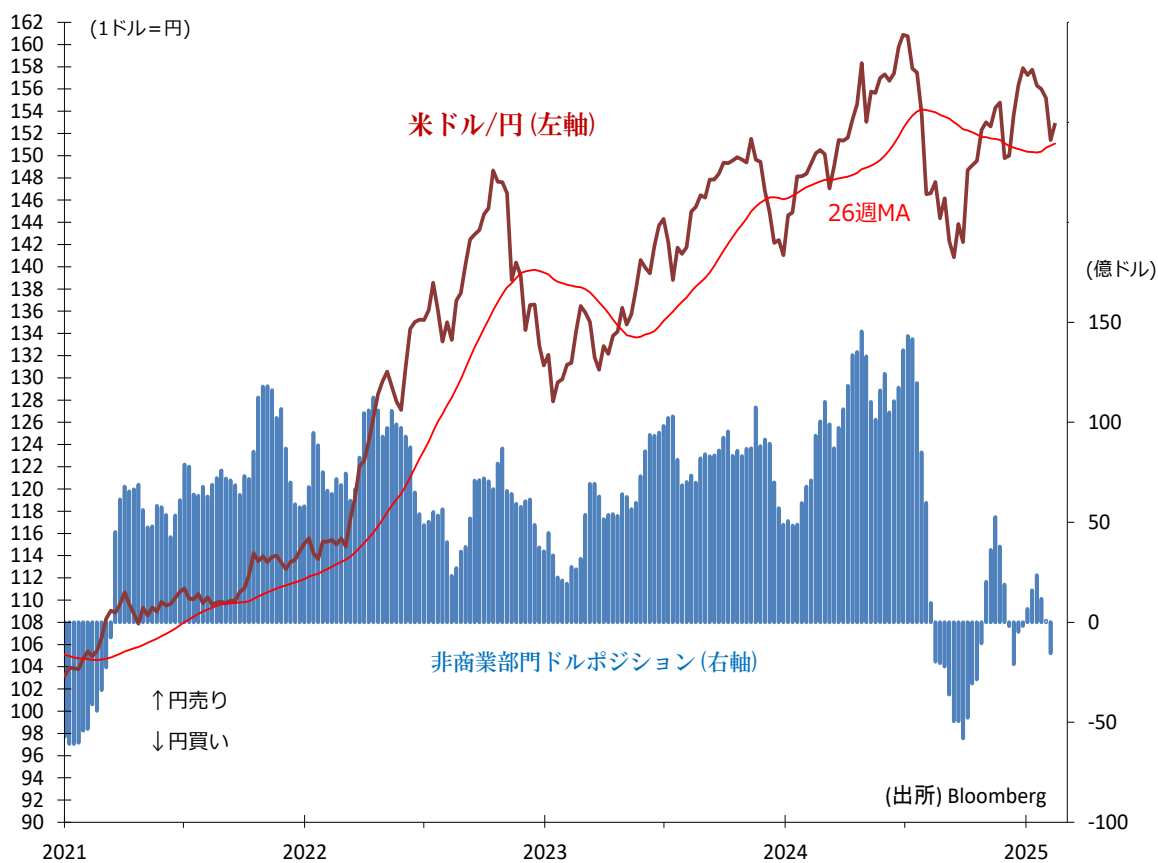
金利差からのドル/円推計値

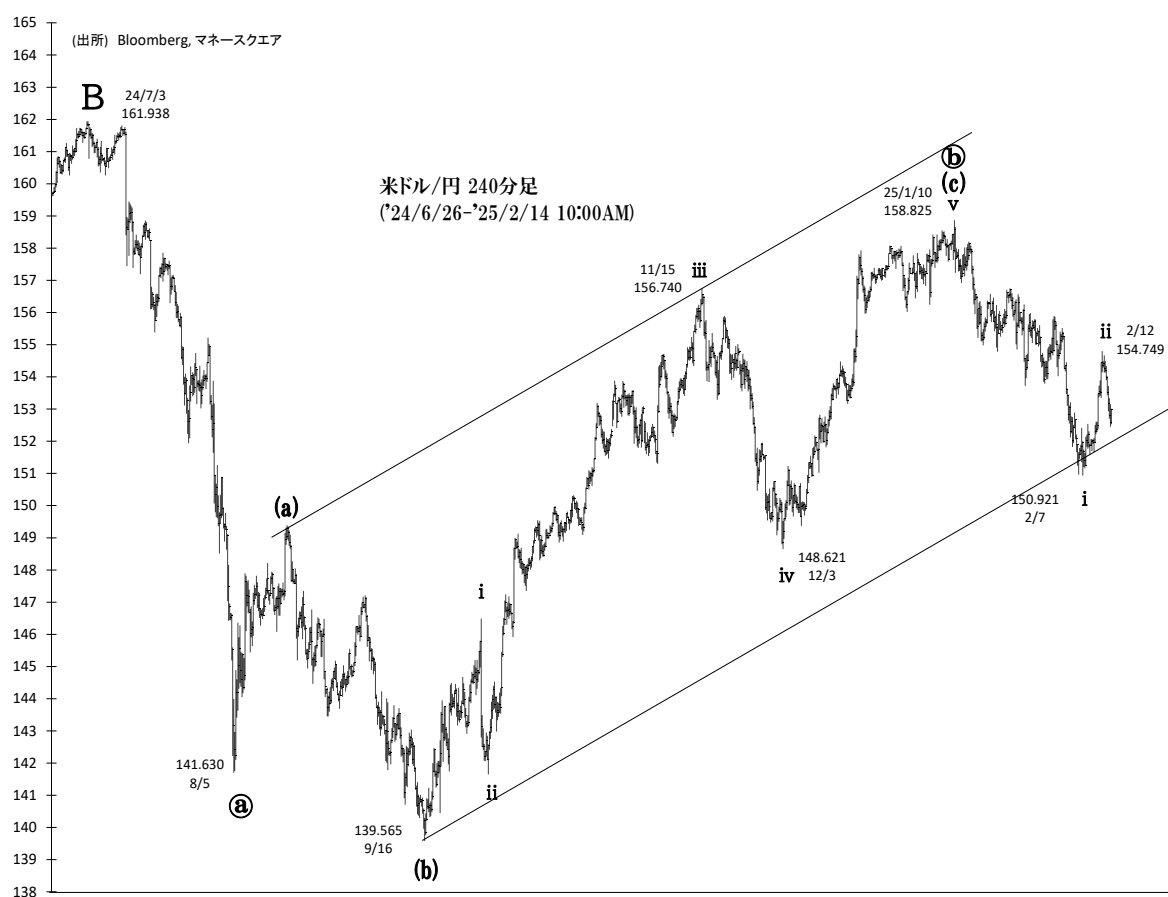
日本国債 10 年物(JGB10 年)は一時 1.370%へ上昇しました(2/13)。引き続き 1.515%–1.615%へ上昇する可能性があります。今後も日米金利差の縮小が想定されます。

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[147.553 円]です。

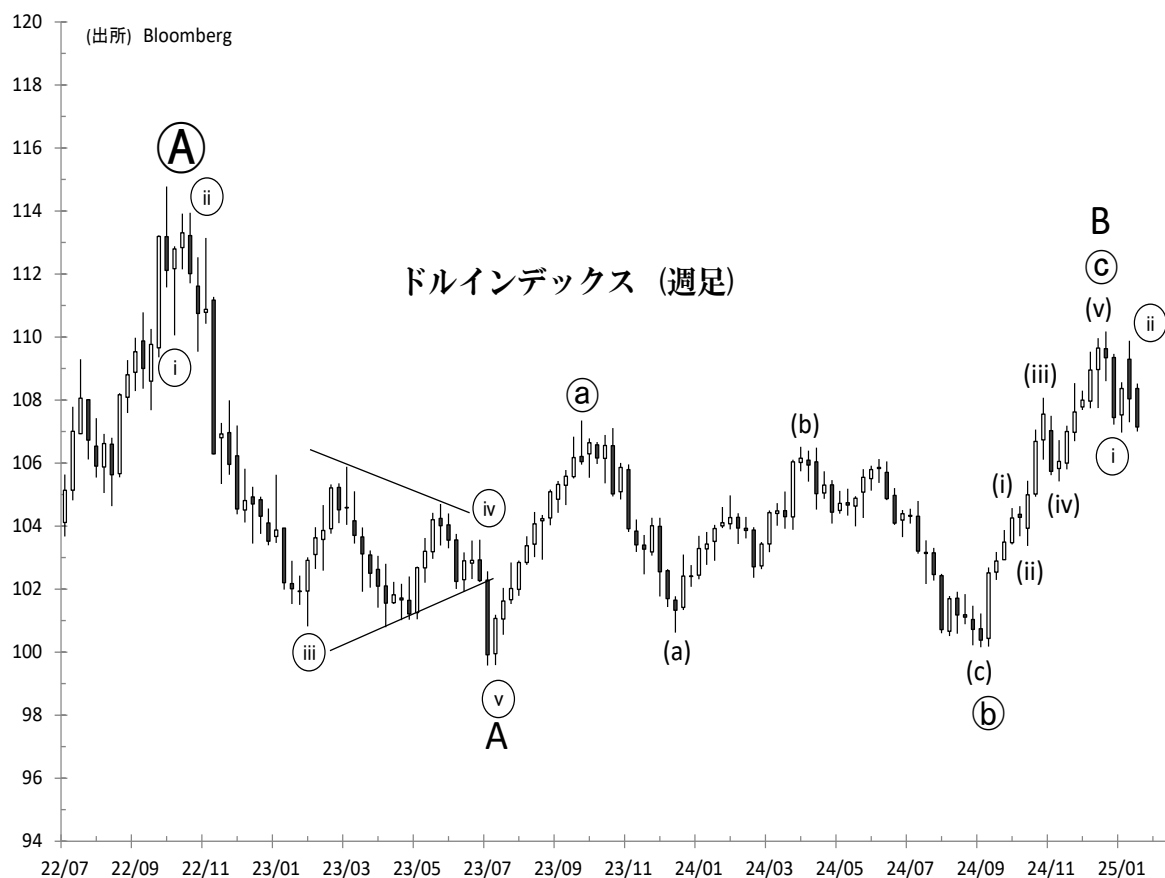
投機筋は 24 年 12 月以来の買い持ち(2025 年 2 月 4 日時点)

IMM 通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)の円の対ドルポジションは、前週の 0.77 ドル売り持ちから 15.5 億ドルの買い持ちに転じました。円買い持ちとなるのは 24 年 12 月以来です。





ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

110.176(1/13 高値)を以て 24 年 9 月からの B 波-ⓐ波は終わり、C 波によるドル安トレンドが始まった可能性が高い、とみられます。

109.881(2/3 高値)からは、マル iii 波によるドル安が始まったとみられ—1 月高値とダブル・トップを形成—**まもなく 106.969(1/27 安値)を下抜く展開になりそう**です。

106.969 を下抜いてから当面の下値メドは、[106.349]、[105.420]などです。

[106.349]…B 波-ⓐ波の 38.2%押し

[105.420]…24 年 12 月 6 日安値

22 年 9 月～23 年 7 月の A 波において、ドルは 10 カ月で 13.2%減価しました。この A 波の期間と下落率は、C 波を考える上で参考になるでしょう。

筆者はドル指数が今年中に、23 年安値[99.578]を大きく下回る可能性をみています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4% 以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10% です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
